

- 管内 石狩管内
- 分類 防犯教室 安全マップ 不審者対応訓練 その他（ ）
- 教育課程 教科（生活科） 道徳 総合的な学習の時間 特別活動
- 校種 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校
- 取組のポイント

- 児童が自ら「安全マップ」を作成することによる、実感を伴った安全意識の醸成
- 家庭と学校が安全確保について、きめ細かく情報共有する取組の実施

取組の実際

ねらい

- 「安全マップ」を、児童同士がお互いの生活体験を出し合いながら作成することを通して、児童に危険回避能力を身に付けさせるとともに、学校が作成した「安全マップ」を保護者に周知することで、家庭と連携した安全確保を推進する。

内容

1 生活科「まちたんけん」と関連付けた通学路「安全マップ」の作成

児童が、「ここは車通りが多い」「ここは道が狭く、歩道がない」など、お互いの生活体験等を出し合うことを通して、通学路の「見える危険（顕在的危険）」について意識を高め、校外学習等での自らの行動を自己管理できるようにしている。



【「見える危険」を出し合う安全マップ作成の過程】



【対話を通して安全マップを作成している様子】

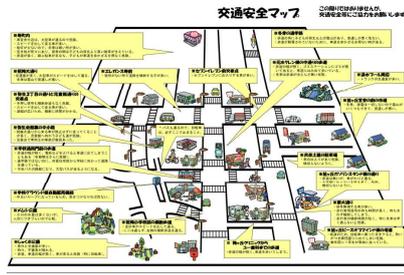
各教科等の特性に応じた安全学習の取組を積極的に推進しているとともに、実感を伴った危機回避能力を身に付けられるよう、児童が生活体験を話し合うなど、対話的な学びを大切に安全学習が行われています。

2 生活安全に関わる「安全マップ」の各家庭への配付

児童が作成した「安全マップ」の情報も取り入れ、学校が「安全マップ」を作成し、各家庭に配付することで、家庭と連携した安全確保を推進している。



【防犯に関わる安全マップ】



【通学路に関わる安全マップ】

「防犯」や「通学路の安全」など、生活安全に関わる「安全マップ」を学校が作成し、各家庭に配付することで、安全確保について、きめ細かく情報共有し、連携を図る取組を進めています。

成果と課題

- 通学路の「安全マップ」を児童が作成したり、生活安全に関わる具体的な「安全マップ」を保護者に配付したりしたことにより、児童の危険回避能力を育成するとともに、安全確保について、家庭と学校のきめ細かな情報共有ができた。
- 「見える危険（顕在的危険）」とともに「見えない危険（潜在的危険）」についても適切な意思決定や行動選択ができるよう、体験型の安全教育を工夫する必要がある。